

バイオマス利活用施設の概要[岐阜県白川町東濃ひのき]

成日：平成 20 年 3 月 10 日

作成者：NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会

	【施設名称】 木質バイオマスエネルギー利用施設 白川町「森の発電所」
	【事業主体】 東濃ひのき製品流通協同組合
	【所在地】 岐阜県加茂郡白川町三川 1539
	【運転開始年】 平成 15 年度
原材料および利用量	木屑(製材端材、プレーナー屑等)、処理量 2.5t/時間
生産物（種類）	燃焼による発電
利用方法	工場施設(プレカット、木材乾燥機等)の稼働や事務所等、自社で 400kw を消費するとともに残り 200kw は電力会社に売電
導入目的・経緯	木屑等の処理対策は、ダイオキシン問題等で個人単位での処理が困難となってきた。そこで白川町では、製材業者、木質バイオマス発電所を建設。東濃ひのき製品流通協同組合が事業主体となり、平成 16 年 2 月から稼働している。
設備仕様	設備方式 木屑焚きボイラーによる発電 施設規模 2.5 t/h (最大能力一日 60 t/日、20,000 t/年) 燃焼方式 順送式トラベリングストーカー炉 蒸発量 7.5 t/時 蒸気圧力 1/9 7 MP a G 発電出力 6 0 0 KW/時 利用蒸気 5 . 9 t/時 形 式 復水式タービン 空冷式三相同期発電機 木材乾燥機 3 0 m ³ × 3 基 利用蒸気 1.5 t/時
稼働状況	木屑発生量を勘案して、処理量 30t/日で、12 時間の発電
経済性関連データ	補助事業の有無 有 国庫補助・県単独・その他
導入効果	燃料がバイオマスであるので CO2 の純増はまったくないカーボンニュートラルな施設。森の発電所は、新エネルギー等発電設備認定 (R P S 認定) を取得。東濃ひのき製品流通(協)の工場ではこの電力を使用して製品加工等を行い、余剰電力は電力会社へ供給している。化石燃料の使用を抑制すること

	となり、地球温暖化防止にも貢献。
運営上の課題	原油価格の高騰によって、林業地帯以外に立地する工場等が木質バイオマスを燃料としたボイラー等を導入した結果、燃料である木くずの確保が困難になってきた。
備考・参考資料	NEDO：バイオマスエネルギー導入ガイドブック